

# Welcome to 授業

## 授業概要

世界史に残る震災と原発事故をもたらした3.11の後で、大学において何を学び、考える必要があるのか。この問いに真剣に向き合おうと考えた教員が4つの学部から集まり、それぞれの専門に関連させながら「学問の不確かさ」を批判的に考える連続授業を行いました。また学生同士のディスカッションを通して、答えが用意されていない問題を考え続ける作業に挑戦しました。



## 学生から

「3.11」という一つの出来事を軸として、理系や文系の垣根を越えたさまざまな分野のお話を聴き、それを踏まえて教員や学生同士で

重ねた議論はとても有意義でした。この授業を通して、一つの問題を解決するには、一つの視点だけでなく物事を多角的に見ること、そしてその上で「自分で考える」ことがとても大切だということ学びました。  
農学部 森林科学科1年 林実李



自分たちはどのような社会にしたいのか、という言葉が印象的でした。今後の社会を担っていくのは私たちの世代であることを認識するだけでなく、その世代の一人として責任を感じました。幅広い分野の講義と履修者とのディスカッションを通して学んだことを生かし、講義履修後も真剣にこの問題を自分自身に問い続けていきたいと思えます。

国際学部 国際社会学科1年 丹治真奈



私は相手の気持ちになることができれば公害なんか起きないだろうなと思いました。今回の原発のこともそうですし、反省を活かすこと、相手の気持ちにたつことが大切なのだと思います。ほかにも被災三県などという分け方、情報を多面的にとらえること、情報の発信の仕方への不満、権威主義など自分で考えることが大切だと意識した授業でした。

教育学部  
学校教育教員養成課程  
社会科専攻1年 益子丈生



この講義は、震災後自分の中でもややしていたことに、積極的にアプローチする機会になりました。学部学科などの隔たりをなくすことで多くの視点から問題を見ることができ、お互いの思考をシェアすることで自分の思考も深められました。講義の内容だけでなく、受講した学生の意見などを、これからの普段の自分の思考や生活に還元していきたいと思えます。

工学部 建設学科  
建築学コース1年 田崎充彰



## 教員から

「3.11」がまるで起こらなかったようにこれまでと同じ授業はできない、と悩んでいたときに、多くの先生方のご理解を得て実現したのがこの授業です。初の試みで教員側も手探りでしたが、学生たちは学部や学年を越えて積極的に議論し、授業の質を高めてくれました。教員が用意した答えを鵜呑みにせず批判的に考察し、「先生が言ったから」ではなく、自分たちの言葉と論理を駆使して思考し、議論できるようになってほしいと願っています。対話を通して獲得する自立的思考力と共生のための表現力が、21世紀の新しい社会を創っていく力になると信じるからです。

国際学部 国際社会学科 准教授 清水奈名子



全学部教員による連続授業（2012年4月～7月）  
「3.11と学問の不確かさ」 - 震災後の大学で考える -  
授業講師 / 廣内大輔・飯郷雅之・小原一真\*・二瓶由美子\*・田口卓臣・西崎伸子\*・尾崎功一・山本美穂・大久保達弘・飯塚和也・森本章倫・長谷川万由美・上原秀一・阪本公美子・清水奈名子（\*は学外講師）